

3/24 3月日

ウクライナに学んで外交努力を

高校生

(千葉県 17)

ロシアによるウクライナ侵攻から1年、未曽有の事態に「軍拡をしなければ日本が中国に攻められる」と主張する人もいる。本当に日本は中國に攻められるのだろうか。中国が日本を侵攻する利益は限りなく小さいと思う。日中両国は経済的にも文化的にも密接な関係にあり、戦争状態に突入すれば、双方に甚大な被害が及ぶことが想定されるからだ。

そもそも戦争は外交の失敗として起まる、私は考える。中国脅威論は日本を第一のウクライナにさせま

い」というものだが、ロシアの侵攻に

は、ウクライナがNATOに加盟すればロシアの脅威になりえた、といふ背景がある。ゼレンスキー大統領はロシアの強大な軍事力に、NATOの強大な軍事力をもって備えようとして、結果として侵攻を受けた。

岸田政権が敵基地攻撃能力の容認と軍事費増額を決めた。もしそれが中國の軍事行動に備えるためのものなら、まず首脳会談や外相会談で話し合うべきではないか。軍拡が逆に危機につながることはウクライナ侵攻を見れば明白だと思ひ。外交努力で問題の解決を目指してほしい。